

IV 事業概要

1 学芸事業

【2 調査・研究, 収集・収蔵・保管, 科学相談等】

(1) 調査・研究活動

① 東日本大震災自然環境調査事業

■ 自然豊かな蒲生干潟継続観察プロジェクト事業

東日本大震災の津波被害で大きくその環境が変わってしまった蒲生干潟について月に 1~2 回の間隔で、継続観察事業を行った。その成果を速報として広報した。平成 29 年度は 141 号から 164 号まで発行した。

<速報版の号数とタイトル; 平成 29 年度発行分>

号数	発行日	速報版	タイトル
第 141 号	2017. 4. 14	蒲生干潟の地形調査②	
第 142 号	2017. 4. 15	順調な稚魚の成長	
第 143 号	2017. 5. 11	蒲生干潟の地形調査③	
第 144 号	2017. 5. 16	蒲生干潟の地形調査④	
第 145 号	2017. 5. 20	様々な生物が見られる初夏	
第 146 号	2017. 6. 9	蒲生干潟の地形調査⑤	
第 147 号	2017. 6. 17	湿地の喪失	
第 148 号	2017. 7. 15	カニの生息環境の変化	
第 149 号	2017. 8. 11	長雨の影響	
第 150 号	2017. 8. 22	蒲生干潟の地形調査⑥	
第 151 号	2017. 9. 14	蒲生干潟の地形調査⑦	
第 152 号	2017. 9. 9	七北田川河口域のカニ	
第 153 号	2017. 10. 14	進む乾燥化	
第 154 号	2017. 11. 9	蒲生干潟の地形調査⑧	
第 155 号	2017. 11. 11	冬越しに向けて	
第 156 号	2017. 12. 10	失われた泥地	
第 157 号	2017. 12. 15	蒲生干潟の地形調査⑨	
第 158 号	2018. 1. 5	蒲生干潟の地形調査⑩	
第 159 号	2018. 1. 5	蒲生干潟周辺の塩分濃度⑪	
第 160 号	2018. 1. 13	干潟の鳥	
第 161 号	2018. 2. 10	イシガレイの接岸	
第 162 号	2018. 3. 12	多くのイシガレイ	
第 163 号	2018. 3. 15	蒲生干潟の地形調査⑫	



蒲生調査レポート158号



簡易GPSによる地形調査風景

＜科学館研究報告＞

以下の論文が平成 29 年仙台市科学館研究報告第 27 号に掲載された。

2011 年東北地方太平洋沖地震津波後の蒲生干潟の地形変遷その 7

中田晋・小山康宏

要約；2011 年東北地方太平洋沖地震に伴って発生した津波によって、七北田川河口に広がる蒲生干潟はその姿を大きく変えた。震災後 3 年間で大きく変動したのち安定した干潟内部の汀線は、その後もほぼ安定な状態を保っていた。今回の調査では一つの大きな潟湖が二つに分断されることも確認され、潟湖全体の水位が低くなっていた。また、導流堤通水部分付近のようすから、このあたりは東に土地が傾いていることが推測される。

蒲生干潟周辺の塩分濃度（2017）

小山康宏・中田晋・大津秀穂

要約；蒲生干潟の潟湖内及び七北田川河口（12地点）の表層水の塩分濃度を調査した。調査の結果、塩分濃度について、2016年の報告と同様に潟湖内の塩分濃度は一様でないこと、同一の採水点でも一定の塩分濃度でないこと、導流堤通水部から遠い採水点（St. 1, St. 2）の塩分濃度が低い傾向にあることが示された。

一方、潟湖南部（St. 6, St. 7）の塩分濃度が夏季と比較し、冬季に高い値を示す傾向が示された。

2011年東北地方太平洋沖地震後の蒲生干潟におけるイシガレイの成長（2017年度調査報告）

佐藤賢治

要約；仙台市の七北田川河口にある蒲生干潟は2011年東北地方太平洋沖地震により大きな被害を受けた。地形も大きく変わり、そこに住む生物は多大なる影響を受けている。

これまでの調査で、年により成長の速さに差は見られるものの、震災後もイシガレイは順調な成長を見せていた。また、潟湖内の個体は河口域の個体より大型である傾向が認められたが、これは潟湖内の方が成長が速いのではなく、遊泳力の大きい大型の個体が導流堤通水部を通り潟湖内に進入するからではないかと思われた。これらの調査結果を踏まえ2017年度も引き続き調査・考察を行った。

2011年東北地方太平洋沖地震後の蒲生干潟におけるカニ類を中心とした生物の様子（2017年度調査報告）

佐藤賢治

要約；仙台市宮城野区の七北田川河口にある蒲生干潟は2011年東北地方太平洋沖地震により大きな被害を受けた。本レポートは2011年度から継続して調査した、カニ類を中心とした生物の様子をまとめたものである。